

私は、北海道滝川市の生まれで、大学卒業後、約一年間のゼネコン勤務の後、北海道に採用となりました。北海道での勤務は、今年で約 20 年となります。その中でも、道東方面は、特に希望している訳ではありませんが、非常に長く十数年となります。

今年 3 月に東北地方で起こった大震災による津波の影響で未曾有の被害が発生しました。その中でも、福島県の原子力発電所は、外部電源装置の流出により、炉心の冷却機能の喪失で、炉心の一部溶融や燃料が露出して、大量の放射性物質が外部へ流出する事態が発生しました。原子力発電は、比較的発電コストが低く、電力需要の増加とともに総電力供給量に占める割合が増加し、現在は概ね 24%となっています。また、火力発電と比べ発電時の二酸化炭素の排出量が少ないため温室効果ガス削減効果もあり、近年、社会的受容が高まりつつありました。しかし、今回の事態により、発電所の安全率をいくら高めても、事故を起こしたときの影響の大きさから、今後の原子力発電は大幅に減少すると考えられます。これからは、供給電力量の減少により、自然エネルギーによる発電の推進や電気料金値上げ等により、産業構造の再構築や国民のライフスタイルの変換が進むことで、多方面にわたり新たな技術が求められてくると考えられます。これらの流れに対応していくためにも、日々継続的な研鑽に努め、自らの技術を向上させて、安全、安心な社会の形成に貢献していきたいと思っております。

近井 泰秀 (ちかい やすひで)

●水産部門(水産土木)

勤務先

北海道オホーツク総合振興局
網走建設管理部事業室地域調整課



→ 次号は、金子寛次さん(水産部門)

建設コンサルタントに勤めて 16 年目になります。主に山岳トンネルおよび開削トンネルの業務に従事し、調査や設計・施工管理を担当してきました。現在はコミュニティサイクル“ポロクル”の運営マネージャーを努めています。

複雑な社会情勢のもと価値観の多様化により公共事業に求められるものが変化する中、各地域では“オンデマンド交通”などの新たな取り組みが注目されています。弊社でも培ってきた技術を基にプロジェクトを立ち上げ、コミュニティサイクルを研究してきました。私は立ち上げから参画し、IT化した駐輪ポートや登録管理システムの開発、ユーザー対応などの運営管理など担当してきました。

このプロジェクトは全く専門外でしたが、限られた予算と時間の中で目標を設定し手段を模索しながら運営していくことは、トンネル工事のプロセスにどこか共通しています。一方、地山やコンクリートではなく市民と直接向き合うようになり、細部にわたる要望からシステムや運営体制のあまさを痛感しています。新しいチャレンジには様々な問題は潜んでいますが、改善への欲求が発想へとつながり、自分を技術者として成長させる原動力になっていると感じているところです。

課題の多い時代ですが、平和で豊かな社会を未来のこどもたちに受け継いでいくために、市民に受け入れられる“ポロクル”を創り上げると共にチャレンジ精神で日々研鑽にはげみたいと考えています。

三田村大松 (みたむら だいまつ)

●建設部門(トンネル)

勤務先

株式会社 ドーコン
構造部



→ 次号は、西村公郎さん(建設部門)